

起業家支援財団 事務局通信 NO.8



7月10日、内閣府地域社会雇用創造事業の一環で行った iSB 公共未来塾のキックオフイベント。基調講演は慶應義塾大学教授・金子郁容氏(写真右)。190名の参加があり、社会起業家への関心の高さがうかがえた。

発行日 平成 22 年 9 月 10 日 (金)
発行 公益財団法人起業家支援財団
事務局 〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80
TEL 045-263-9222 FAX 045-263-9220
www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp
発行責任者 小林孝雄 編集 治田友香

4月1日より新たに公益財団法人としてスタート、早いもので5カ月が経ちました。この間、7月には内閣府から受託した社会的企業育成支援事業コンソーシアムとして第1期 iSB 公共未来塾を開講しました。

今回は平成 22 年度第 2 四半期並びに第 3 四半期の報告をいたします。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(副理事長:小林)

■理事会並びに評議員会開催

当財団が公益認定を取得したこと並びに内閣府からの事業受託(後述)に伴う予算修正を主な議案として、5月27日(木)午前11時~12時、臨時評議員会を、同日午後1時~2時、臨時理事会を開催しました。冒頭松井理事長より当臨時理事会並びに評議員会は、当財団が公益財団法人の認定を得たので財団法人起業家支援財団を解散し、新たに公益財団法人起業家支援財団として発足することになり、言わば記念すべき理事会、評議員会となる旨のご挨拶をいただきました。

■社会的企業育成支援事業コンソーシアム 進捗報告

本事業は内閣府からの受託事業(地域社会雇用創造事業)ですが、7月10日(土)、ヨコハマ創造都市センターにおいて開催したキックオフイベント(社会的企業育成支援事業シンポジウム)を皮切りに、7月24日(土)第1期 iSB(注)公共未来塾をスタートさせました。塾生と70名の方に応募いただきました。

第1期は社会的企業での職業体験を挟んで9月12日で終了しますが、本事業は2年にわたるプロジェクトで今後第6期まで継続してまいります。(最終第6期は平成23年12月に終了予定です。)

また本事業のもう一つの柱である社会起業プランコンペティション(第1回)についても24件(塾生からの応募を含めると67件)の応募があり、9月26日(日)に最終審査(公開プレゼンテーション)を実施します。関心がある方はぜひご参加ください。(注) institute of Social Business

■横浜市立大学寄附講座について

大学生に対するアントレプレナー教育の一環として、横浜市立大学で「起業経営論」を寄附講座として設定、4月から7月にわたり神奈川県内の創業経営者4氏による講義を実施しました。

■経営道場 2010 の受講生募集中

今年で3回目となる『経営道場』は、9月15日(水)より来年3月5日(土)まで、全13回(うち1回は合宿)を予定しています。

今回ご講演をお願いした方々は、松井理事長、呉評議員をはじめ、次の方々です。

今矢賢一氏(ブルータグ株式会社 代表取締役社長)、神山治貴氏(株式会社マクニカ 取締役会長)、藤川雍中氏(エバラ食品工業株式会社 代表取締役社長)(50音順)

■第3回ベンチャー起業家と経営者をつなぐフォーラムを開催します。

「神奈川のモノづくり

——中小企業の勝ち残りの方策を探る」

日時: 2010年10月14日(木)

フォーラム 15:00~18:00

情報交流会 18:00~19:20

場所: ホテル キャメロットジャパン

※基調講演は、櫻井 享氏〔川崎市産業振興財団 産業支援部新産業振興課長〕にご登壇いただきます。

■ 学生起業塾の実施報告

第3期奨学生を対象にした学生起業塾を下記の通り3回開催しました。合宿初日に出席した松井理事長からは起業の厳しさを説かれ、奨学生にとって互いに刺激を受けあった有意義な二日間になったものと思います。各回、奨学生によるビジネスプランのプレゼンテーションと意見交換を行っています。

<p>◆第17回 4月24日(土) 福重広文氏 〔株式会社アイアンドディ 代表取締役〕</p>	<p>B2B マーケティングの手法として自社の市場の把握、顧客分析、ターゲットに応じた営業活動といった一連のサイクルの重要性が説明された。 マーケティングと営業の違いを狩猟にたとえて「森から動物を出すのがマーケティングで、出てきた動物を見つけて捉えるのが営業」と説明され、そのことを踏まえて「マーケティングは鳥の目で、営業は虫の目で」とのアドバイスがなされた。</p>	
<p>◆第18回 6月8日(火) 今矢賢一氏 〔株式会社ブルータグ 代表取締役社長〕</p>	<p>今矢氏は、当初はインターネットの世界をリードしたいと思い起業し、紆余曲折を経て、ご自身のライフワークであるマイナー競技のアスリート支援事業に辿り着いた。 自身の経験を紹介したうえで、本気に打ち込めることは簡単には見つからないということや、事業を進める中で危機に直面したときには誰から言われても「これがやりたい」と言えることが必要等のアドバイスがなされた。</p>	
<p>◆第19回 合宿 8月25日(木) ～26日(金)</p>	<p>講師①：石井正一氏〔株式会社アイスリー 代表取締役〕 アイスリーは、ゼンマイ機構を用いた無電力引き戸開閉アシスト装置を開発した。アイデアを形にするまでには、材料の開発や耐久性試験等様々な困難があったが、現在は、鉄道車両の通路ドアに採用されている。これらの経験を踏まえたうえで、何か事を起こすためには「覚悟」が必要、夢を持ったらあきらめないでとことん行くこと、等のアドバイスがなされた。</p> <p>講師②：笠原吉昭氏 〔リカーズかさはら 代表〕 葉山町の住宅街で酒屋を営む笠原氏は、ワインを始め、日本酒や焼酎など、数々の葉山オリジナルの商品を開発し、販売している。当初は酒蔵に特別に製造してもらっていたが、現在は、地域の人たちの協力も得てお米やぶどうの栽培まで行っている。オリジナル商品は経費がかかるので利益はあがらないが、お客さんが喜んでくれることが一番であり、それが、今まで続けてこられた秘訣だと述べられた。</p>	<p>【松井理事長講話】松井理事長より、自身の経験を踏まえ、事業計画を作ることとそれを実行することは別であり、実行するためには粘りが必要であるということや、失敗の原因で一番多いのは、うぬぼれであり、感謝の気持ちが自然に湧いてくるようにならないければ、事業家としては成功しない等のアドバイスが述べられた。また、経営者の資質に言及し、最初から何もかも備わっている人はいないものであり、人より僅かに多くの挑戦意欲を持つことが大切であると述べられた。</p>

※なお、第4期奨学生は現在募集中です（応募締切：10月29日）。

事務局から

- 4月から公益財団法人に生まれ変わり、やりがいと責任、共に倍増です。財団の本来事業である学生起業塾、経営道場に加え、新たに受託した内閣府による地域社会雇用創造事業は規模も大きく、その他案件も目白押しで、事務局の体制も変貌しつつあります。
- 4月から事務局の一員として羽田が加入、コンソーシアム事業推進に当たってはインキュベーション・マネージャーとして野竿、市岡、湯浅、広報担当に川辺が加わり、土、日、夜間を問わずフル稼働しています。
- 関係者一同、健康管理に怠りなきようにして、より充実した内容と成果をあげるべく頑張っていきたいと心を一つにしているところです。（羽田）